

■ 概況

4/5~4/11のNYMEX・WTIは、62.06~66.82ドルの範囲で堅調に推移した。

4月12日は、3年4ヵ月振りの高値による利食い売り、警戒感による売りが先行したが、シリアに対する武力行使の可能性など中東情勢を巡る緊張によって、続伸し高値を更新した。5月限の終値は前日比0.25ドル高の67.07ドルだった。

週末13日は、シリア情勢の緊張の高まりに加え、前日のOPEC月報の3月OPEC産油量前月比20.1万b/d減少の報告、バーキンドOPEC事務局長の過剰在庫9月解消、2019年の減産継続の見通し発言もあって、5日続伸した。ただ、高値による利食い売りが出やすかった上に、ペーカーヒューズ社の米国内石油掘削リグ稼働数が815基（前週比7基増）と2週連続で増加したことが上値を抑えた。5月限の終値は前日比0.32ドル高の67.39ドルだった。

週明け16日は、14日（日本時間）に米英仏によるシリアに対するミサイル攻撃が行われたものの限定的なもので緊張感が和らいだこと、先週の3年4ヵ月振りの高値による利益確定売りがあったことから、6営業日振りに反落した。5月限の終値は前週末比1.17ドル安の66.22ドルだった。

17日は、米国官民の在庫週報の発表を前に、供給過剰感が後退するとともに、シリア攻撃へのロシア・イラン等の反発などシリア情勢の緊張の継続、米国の対イラン経済制裁の再発動の観測が意識され、反発した。5月限の終値は前日比0.30ドル高の66.52ドルだった。

18日は、米エネルギー情報局(EIA)の米国在庫週報で、原油在庫が市場予想下回ったものの取り崩しになったこと、引き続きシリア情勢をはじめとして中東情勢が流動的なこと、

OPEC・非OPECの協調減産の延長機運等から、大きく続伸した。5月限の終値は1.95ドル高の68.47ドルだった。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(5月渡し)は、前週64.70~67.60ドルの範囲で推移した。4月12日69.20ドル、13日68.50ドル、16日68.50ドル、17日68.40ドル、18日69.00ドルで推移した。

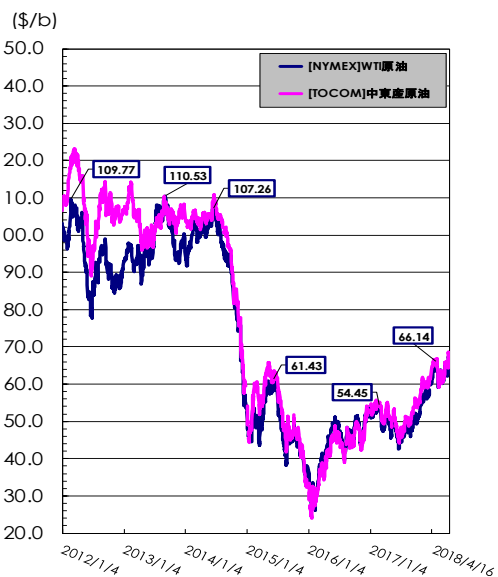
為替は、前週106.75~107.22円の範囲で推移した。4月12日106.91円、13日107.41円、16日107.51円、17日107.08円、18日107.20円で推移した。

財務省が18日発表した貿易統計(速報・旬間ベース)によると、3月下旬の原油輸入平均CIF価格は、44,084円/klとなり、前旬を539円下回った。ドル建てでは66.00ドルで前旬比0.60ドル安。為替レートは1ドル/106.20円。また、同日発表した貿易統計(速報・月間ベース)によると、3月の原油輸入平均CIF価格は、44,734円/klとなり、前月を2,191円下回った。ドル建てでは66.74ドルで前旬比1.50ドル安。為替レートは1ドル/106.56円。

主要元売会社の4月第4週に適用する卸価格は、ガソリンが全社2.0円の値上げ、軽油も全社2.0円の値上げ、灯油も全社2.0円の値上げだった。原油価格は大きく値上がりし、為替レートも円安で、原油調達コストは大きく値上がりした。

そのような中で、4月16日時点の小売価格はガソリンが前週比横ばい、軽油も同横ばい、灯油は同1円の値下がり(18%ベース)だった。灯油は2週振りの値下がり(18%ベース)だった。この週(4月第3週)の原油コストは値上がりし、元売の卸価格はガソリンが全社据え置き、軽油も全社据え置き、灯油が据え置きと0.5~1.0円の値下げに分かれた。

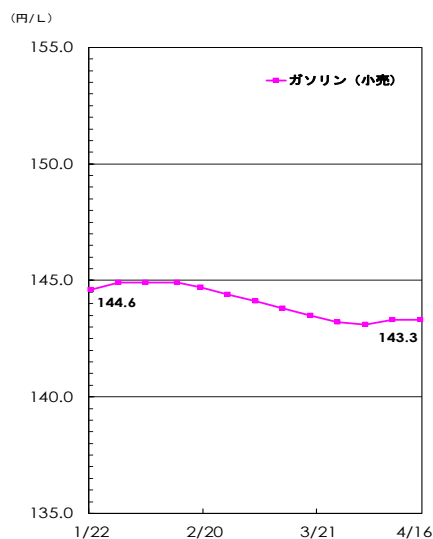
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	4/8 ~ 4/14	3,650 ▼ -27	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	93.2 ▼ -0.7	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	4/14	12,755 ▲ 679	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	4/16	67.81 ▲ 3.47	▲ 13.6
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	4/16	66.22 ▲ 2.80	▲ 13.6
	原油CIF単価 (\$/bbl)	3月下旬	66.00 ▼ -0.60	▲ 9.88
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	44,084 ▼ -539	▲ 3,925
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	106.20 ▲ 0.33	▲ 7.57
	外国為替TTSレート (¥/\$)	4/16	108.51 ▼ -0.64	▲ 0.78



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	4/8 ~ 4/14	1,000 ▼ -119	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	885 ▼ -100	▼ -	
	輸出	"	72 ▼ -7	▲ -	
	在庫	4/14	1,742 ▲ 42	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	4/10 ~ 4/16	60.0 ➡ 0.0	▲ 7.3	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	4/10 ~ 4/16	59.9 ▲ 1.7	▲ 8.8
		(TOCOM/中部)	4/16	59.5 ▲ 0.8	▲ 8.6
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/16	143.3 ➡ 0.0	▲ 9.3	

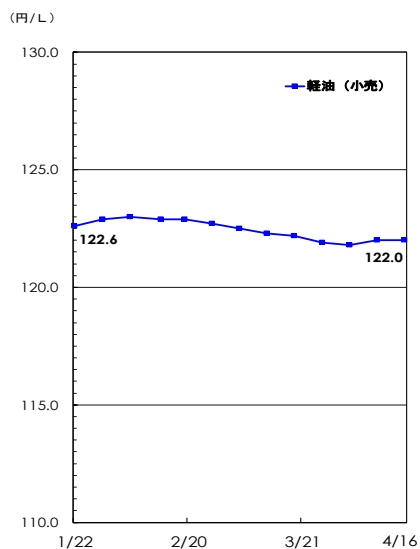
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

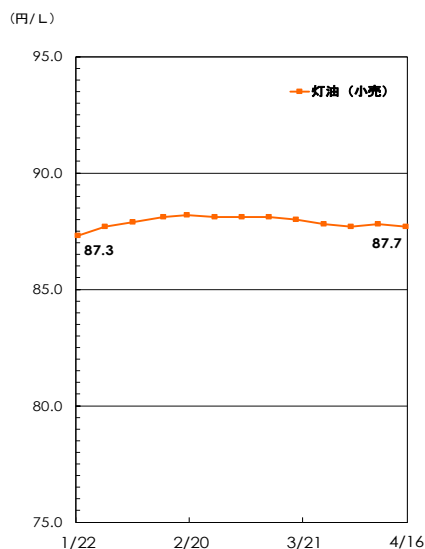
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	4/8 ~ 4/14	780 ▼ -29	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	639 ▼ -2	▲ -	
	輸出	"	99 ▲ 6	▲ -	
	在庫	4/14	1,365 ▲ 42	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	4/10 ~ 4/16	61.3 ▲ 0.1	▲ 10.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	4/10 ~ 4/16	61.0 ▲ 0.1	▲ 13.0
		(TOCOM/中部)	4/16	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/16	122.0 ➡ 0.0	▲ 9.7	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	4/8 ~ 4/14	165 ▼ -40	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	272 ▲ 83	▲ -	
	輸出	"	0 ➡ 0	➡ -	
	在庫	4/14	1,411 ▼ -107	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	4/10 ~ 4/16	62.0 ▼ -0.6	▲ 12.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	4/10 ~ 4/16	60.7 ▲ 1.5	▲ 13.8
		(TOCOM/中部)	4/16	60.5 ▲ 0.5	▲ 13.3
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/16	87.7 ▼ -0.1	▲ 10.0	



■ 関連情報

1 海外/原油

4月18日のNYMEX市場WTI原油は、米エネルギー情報局(EIA)の米国在庫週報で、原油在庫が前週比110万バレル減と市場予想(同140万バレル減)を下回ったものの取り崩し、中間溜分在庫も310万バレル、ガソリンも300万バレルと取り崩しになったことで、米国内の過剰供給感が後退、さらに、シリア情勢を巡る不透明感、OPEC・非OPECの協調減産の延長機運やサウジによる原油価格の上昇期待表明などから、大幅に続伸した。5月限の終値は前日比1.95ドル高の68.47ドル、6月限の終値は前日比1.96ドル高の68.47ドルだった。

EIAによると、4月16日時点のガソリンの小売価格は、前

週比5.3セント値上がりの1ガロン2.747ドル(78.6円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比6.1セント値上がりの3.104ドル(88.9円/ℓ)。ガソリンは2週振りの値上がり、ディーゼルは4週連続の値上がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、平成30年04月08日～04月14日に休止したトッパー能力は0.5万バレル/日で、前週に対して0.5万バレル/日増加した(全処理能力は351.9万バレル/日)。

原油処理量は365.0万klと、前週に比べ2.7万kl減少。前年に対しては12.2万klの増加。トッパー稼働率は93.2%と前週に対して0.7ポイントの減少、前年に対しては3.1ポイントの増加となった。

生産は前週に比べて全ての油種で減産となった。ガソリン/10.6%減、ジェット/14.9%減、灯油/19.6%減、軽油/3.5%減、A重油/20.5%減、C重油/3.9%減。今週のC重油の輸入は7.7万kl(前週比7.7万kl増)。軽油の輸出は9.9万kl(前週比0.6万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比ではガソリンと軽油が減少となり、その他の油種で増加となった。前年比ではガソリンとジェットとC重油が減少となり、その他の油種で増加となった。

ガソリンの出荷は88.5万kl(対前週10.2%減)と2週振りで前週比、前年比で減少となり、3週連続で100万klを下回った。ジェット8.9万kl(対前週33.3%増)、灯油

27.2万kl(対前週43.8%増)、軽油63.9万kl(対前週0.4%減)、A重油22.7万kl(対前週10.2%増)、C重油17.5万kl(対前週46.6%増)。

(単位:千KL)

	今週 (4/8 ~ 4/14)	前週 (4/1 ~ 4/7)	前週比
ガソリン	885	985	▼ -100 (-10%)
ジェット燃料	89	66	▲ 23 (35%)
灯油	272	189	▲ 83 (44%)
軽油	639	641	▼ -2 (-0%)
A重油	227	206	▲ 21 (10%)
C重油	175	119	▲ 56 (47%)
合計	2,287	2,206	▲ 81 (4%)

※今週出荷量=(前週末在庫+今週生産+今週輸入)-(今週輸出+今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

4月14日時点の在庫は、ガソリン、ジェット、軽油、C重油で積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対しては、ジェット、灯油、C重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは174.2万kl、前週差4.2万kl増。前年に対しては3.3万kl少ない。

灯油は141.1万kl、前週差10.7万kl減。前年に対しては43.9万kl多い。

軽油は136.5万kl、前週差4.2万kl増。前年に対しては13.6万kl少ない。

A重油は71.3万kl、前週差3.3万kl減。前年に対しては7.9万kl少ない。

C重油は201.2万kl、前週差7.7万kl増。前年に対しては9.0万kl多い。

(単位:千KL)

	今週 (4/14)	前週 (4/7)	前週比
ガソリン	1,742	1,700	▲ 42 (2%)
ジェット燃料	1,115	1,082	▲ 33 (3%)
灯油	1,411	1,518	▼ -107 (-7%)
軽油	1,365	1,323	▲ 42 (3%)
A重油	713	746	▼ -33 (-4%)
C重油	2,012	1,935	▲ 77 (4%)
合計	8,358	8,304	▲ 54 (0.7%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

4月10日から4月16日の原油価格は、前週対比で大きく値上がりし、為替レートも円安で、原油コストは大きく値上がりしたと見られる。

陸上スポット価格は、4月10日～4月16日までの間、ガソリン113～114円台で値上がり、軽油61円台で横ばい、灯油61～62円台で値下がり後やや値上がりして推移した。

海上スポット価格は、同期間で、ガソリン115～117円台で大きく値上がり後横ばい、軽油62円台で横ばい、灯油58

～60円台で大きく値上がりして推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン112～114円台で大きく値上がり後やや値下がり、軽油60～61円台で値下がり後横ばい、灯油59～61円台で値上がりして推移した。

元売の卸価格は、ガソリンは全社2.0円値上げ、軽油も全社2.0円値上げ、灯油も全社2.0円値上げとなった。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

製品スポット市況は、陸上灯油の値下がり、陸上ガソリン・海上軽油の横ばいを除いて、その他の取引は値上がりした。

4月第4週(4月19日～4月25日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(4月10日～4月16日千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは横ばい、灯油は0.6円の値下がり、軽油は0.1円の値上がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが1.1円の値上がり、灯油は0.3円の値上がり、軽油は横ばいだった。先物価格は、ガソリンが1.7円の値上がり、灯油は1.5円の値上がり、軽油は0.1円の値上がりだった。原油価格は大きく値上がりし、為替も円安で、原油コストは大きく値上がりした。

4月第4週の大手元売の卸価格は、ガソリンが全社2.0円の値上げ、軽油も全社2.0円の値上げ、灯油も全社2.0円の値上げとなった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM) (単位: 円/%)

[陸上ローリー4地区平均]		今週 (4/10 ~ 4/16)	前週 (4/3 ~ 4/9)	前週比
スポット価格	レギュラー	60.0	60.0	➡ 0.0
	灯油	62.0	62.6	▼ -0.6
	軽油	61.3	61.2	▲ 0.1

(TOCOM) (単位: 円/%)

[期近物/終値][平均]		今週 (4/10 ~ 4/16)	前週 (4/3 ~ 4/9)	前週比
先物価格	レギュラー	59.9	58.2	▲ 1.7
	灯油	60.7	59.2	▲ 1.5
	軽油	61.0	60.9	▲ 0.1

※上記価格は税抜き価格

参考値 (4/10～4/16実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	➡ 0.0	▲ 1.7	▲ 0.9
灯油	▼ -0.6	▲ 1.5	▲ 0.5
軽油	▲ 0.1	▲ 0.1	▲ 0.1
A重油	➡ 0.0		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

4月16日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比横ばいの143.3円、軽油も同横ばいの122.0円、灯油は同0.1円安の87.7円(18%ベースでは同1円安の1579円)だった。灯油は2週振りの値下がりだった。都道府県別に、ガソリンの値上がりは16県、横ばいは14道県、値下がり17都府県だった。全国最安値は徳島県の135.9円(同0.2円高)、次が埼玉県の139.1円(同0.1円高)、最高値は長崎県の150.6円(同1.1円安)だった。最も値上がりしたのは、1.4円高の岡山県(139.2円)だった。最も値下がりしたのは、1.1円安の長崎県(150.6円)だった。

先週の原油コストは大きく値上りし、元売の卸価格は、ガソリンが全社2.0円の値上げ、軽油も全社2.0円の値上げ、灯油

も2.0円の値上げだった。今週の原油価格は値下がりしたが、為替レートの円安がこれを一部相殺し、原油コストは値上がりした。次週(4月23日)のガソリンの小売価格は値上りが予想される。

(資工庁公表) (単位: 円/%)

[週動向]		今週 (4/16)	前週 (4/9)	前週比	直近高値
小売価格	レギュラー	143.3	143.3	➡ 0.0	08/8/4 185.1
	灯油	87.7	87.8	▼ -0.1	08/8/11 132.1
	軽油	122.0	122.0	➡ 0.0	08/8/4 167.4

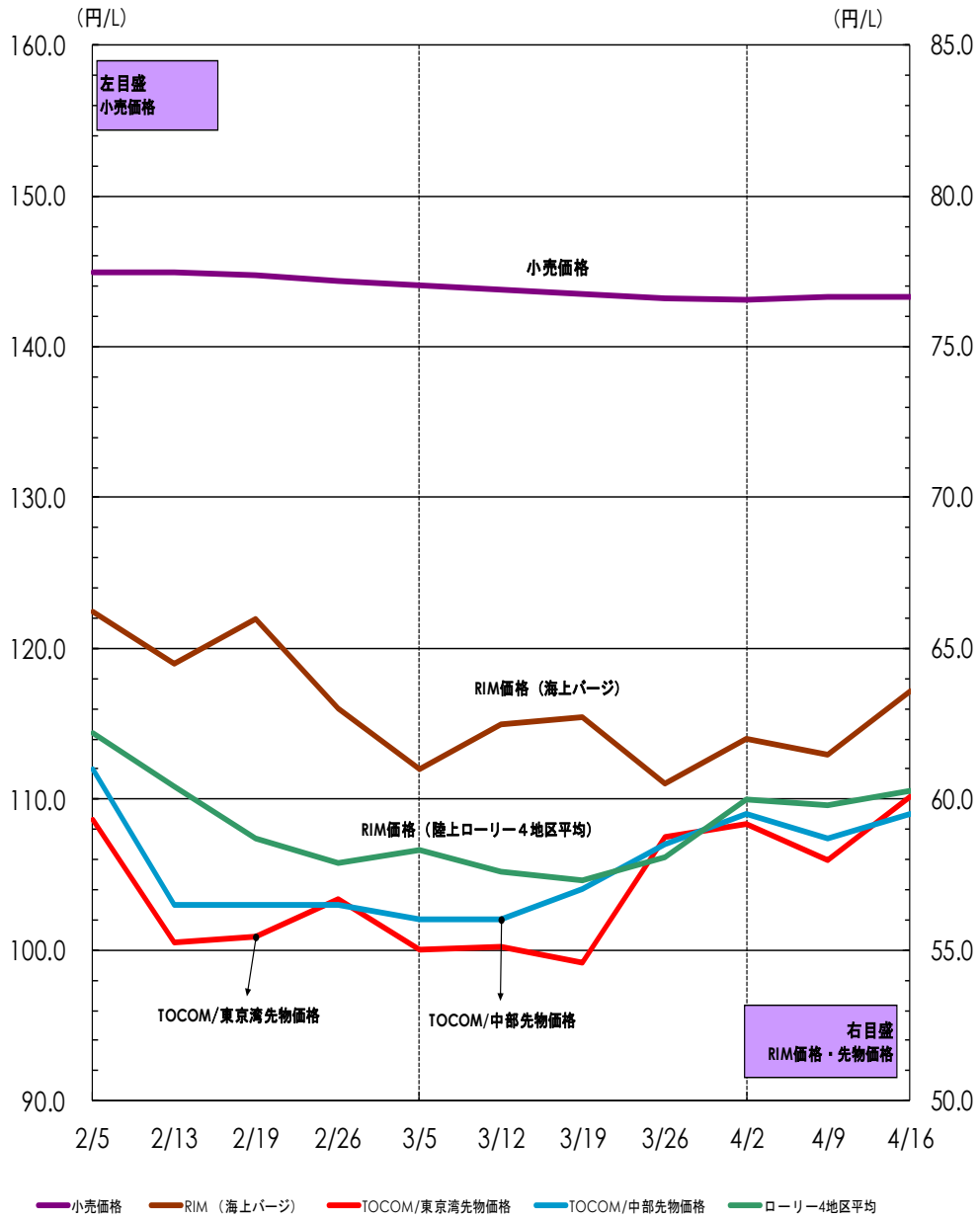
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2018/2/5 ~ 2018/4/16)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.iej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2018第4号)の公表は、4/27(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成29年9月末現在)は、12月13日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。